

2012年4月から広報委員を担当させて頂いている饒平名です。医師会報の編集に携わってから8ヵ月、右往、左往している間に年末となり、編集後記執筆の順番が回ってきました。これまでは、まともに目を通す事がほとんどなかったのですが、実際、読んでみると、充実した内容であり、今では、毎月、興味深く読む事が多くなりました。

冒頭では、まず、平成24年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の報告がされています。「新しい医療の姿—勤務医の明日—」をメインテーマに、地域医療、勤務医の処遇改善、女性医師支援、救急医療体制など対策が急務である重要な案件が挙げられており、是非、一読されることをお勧めします。また、九州医師会連合会平成24年度第1回各種協議会では、医療保険・介護保険・地域医療について、九州各県での実情、取組み、それに対する日本医師会のコメントなどが紹介されており、是非、目を通しておきたい内容です。「平成24年度沖縄県総合防災訓練」は、出口宝先生と大城修先生からの報告です。今回の訓練は、東日本大震災の経験や南海トラフ巨大地震が発生した際の沖縄地方への影響を想定しての訓練概要となり、これまでにない総合的なものとなりました。当日は仲井眞沖縄県知事、稲嶺名護市長も視察に来られ、県や名護市の災害に対する危機感が伺われました。

「平成24年度女性医師の勤務環境整備に関する病院長等との懇談会」は、涌波淳子先生が報告されています。先進的に医師支援に取り組まれている病院の事例や県の支援事業の内容など紹介されており、今後、多くの病院で女性医師が働きやすいような環境整備が進むことを期待します。

今月の「生涯教育」は、古波蔵健太郎先生の「慢性腎臓病(蛋白尿とeGFR)という“ツール”を日常診療に生かす—CKD ビジュアルシンキング—」です。慢性腎臓病(CKD)を病名とし

て捉えるのではなく、末期腎不全や心血管病のハイリスク患者のスクリーニングの為のツールと位置付け、検尿、採血で得られる蛋白尿とeGFR値をもとに腎障害進展を簡便に予測する、という内容であり、明日からの診療に大いに役立つものと思います。

「プライマリ・ケアコーナー」は、宮国孝男先生に「甲状腺癌の早期発見と治療について」を頂いております。症状・診断・治療について詳細に述べられており、とても参考になりました。

「インタビューコーナー」は、新しく那覇市立病院院長に就任された照喜名重一先生です。お忙しい中ご協力ありがとうございました。今後のご活躍を祈念致します。

「月間(週間)行事お知らせ」では、世界エイズデー(12/1)にちなんで、谷口智宏先生に「HIVの現状と展望—臨床医がすべきこと—」を頂いております。HIVについて考える良い機会になりました。

「発現席」では、宮里恵子先生に「沖縄県の離島における乳癌診療の現状」を頂いております。大変興味深く読ませて頂きました。

「随筆」は長嶺信夫先生の「カミキリムシと菩提樹(後半)」、長嶺義哲先生の「妻の実家での夏休み」です。それぞれ、趣の異なるお話でしたが、楽しく読ませて頂きました。

今月号も、興味深いテーマが揃っており、非常に充実した内容であると思います。お忙しい中、ご報告、ご投稿いただいた会員の先生方、医師会事務局の皆様ありがとうございました。来年も宜しく願いいたします。

広報委員 饒平名 知史